

環境・CSR報告書

(2007年3月発行)



川俣精機株式会社

目次

目次・編集方針・会社概要	1
会社経営方針	2
環境保全基本方針	3
環境保全中期計画	4
環境負荷の低減(化学物質管理)	5
環境負荷の低減(リスク低減策)	6
環境情報の公表(地域説明会)	7
環境情報の公表(活動の発信)	8
地域との交流・貢献 - 1	9
地域との交流・貢献 - 2	10
地域との交流・貢献 - 3	11
環境施設の管理	12
環境教育の充実	13

編集方針

本レポートの趣旨

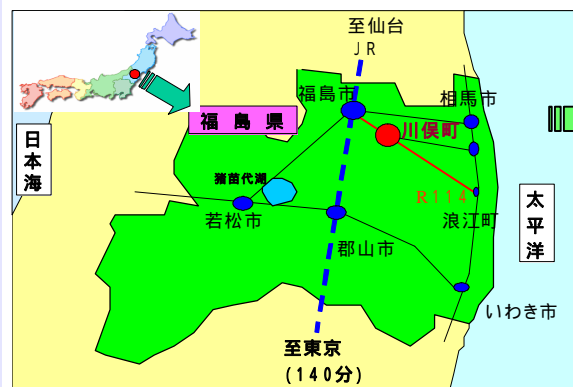
「当社は、環境保全基本方針に「阿武隈の美しい自然を守るため、地域社会との協調・連帯を図って活動します。」

「地域社会との相互理解促進のため、積極的な情報開示とコミュニケーションを行ないます。」を定め活動を行なっております。

本環境・CSR報告書は、積極的な情報開示の一環として関係機関の皆様、取引先の皆様、地域の皆様に活動内容をご報告すると共にご理解を頂くことを目的に作成しました。

- * 対象範囲：川俣精機株式会社
- * 対象分野：環境・CSR活動
- * 発行頻度：毎年3月発行

川俣精機機(株)の所在地と会社概要



1. 商号 川俣精機株式会社
2. 創立 1943(昭和18)年
3. 資本金 2.75億円
4. 代表者 澤村光仁(環境保全責任者)
5. 従業員 200人('07年3月)
6. 敷地 31,560㎡
7. 建物 11,107㎡

8. 工場 本社工場・富田工場
- * 1998年ISO9001 審査登録
 - * 1999年ISO14001 審査登録
 - * 所在地 〒960-1454 福島県伊達郡川俣町字八反田14
- TEL024-565-3111 FAX024-565-3608
<http://www.kawamataseiki.co.jp>

「安全・環境・遵法・社会貢献を基本に事業活動を進めています。」

川俣精機(株)の経営基本方針

「人と地球の、明日のために」をスローガンに活動しています。



当社は、東芝グループの経営理念を基に事業活動を進めています。

人を大切にします。
当社の事業活動に携わる全ての人を大切にします。

豊かな価値を創造します。
技術革新を進め、豊かな価値を創造します。

社会に貢献します。
より良い地球環境の実現に貢献します。
良き企業市民として社会の発展に貢献します。

当社は、東芝グループの一員として、全ての事業活動は
「安全・環境・遵法・社会貢献」を優先に事業活動を進めています。

- ・ 上記の理念を実現するため、環境保全活動においては、環境保全基本方針を定め、全社中期環境目的・目標を設定し活動を進めています。活動は、お客様、従業員、調達取引先、地域社会、自治体の皆様方との係わりの中で進められています。皆様とのコミュニケーション大切に、適切に当社の活動をお伝えするため報告書を作成しました。
- ・ また、地域社会との相互理解の促進のため、積極的な情報開示とコミュニケーションを行っており、2005年は「化学物質と環境円卓会議」で当社の取組み状況を発信し2006年度はPRTR大賞の優秀賞を受賞しました。これらの取組みについては、今後も環境・CSR報告書や地域説明会で情報を公表してまいります。
- ・ 当社の姿勢、活動にご理解を賜り、皆様のご意見やご要望をお伺いし、今後の活動目標に反映してまいります。

「当社は、以下の方針に基づき環境保全活動を進めています。」
川俣精機(株)環境保全基本方針

川俣精機(株)環境保全基本方針

当社は、「“かけがえのない地球環境“を、健全な状態で次世代に引き継いでいくことは、現存する人間の基本的責務」との認識に立って、東芝グループ環境ビジョンのもと、豊かな価値の創造と地球との共生を図ることで持続可能な社会に貢献します。

環境経営の推進

1. 環境への取組みを経営の重要課題の一つとして位置付け、経済と調和させた環境活動を推進します。
2. 事業活動、製品、サービスに関する環境側面について、環境影響を評価し環境負荷の低減、汚染の防止などに関する環境目的及び目標を設定して、環境活動を推進します。
3. 監査の実施や活動のレビューにより環境経営の継続的な改善を図ります。
4. 環境に関する法令、当社が同意した業界などの指針および自主基準などを遵守します。
5. 従業員の環境意識をより高め、全員で取り組みます。
6. グローバル企業として、東芝グループと一体となった環境活動を推進します。

環境調和型製品・サービスの提供と事業活動での環境負荷の低減

1. 地球資源の有限性を認識し、製品、事業プロセスの両面から有効な利用、活用を促進する、積極的な環境施策を展開します。
2. 製品のライフサイクルを通じて、環境負荷の低減に寄与する環境調和型製品・サービスを提供します。
3. 地球温暖化防止、資源の有効活用、化学物質管理など、設計・製造、流通、販売・廃棄などすべての事業プロセスで環境負荷の低減に取り組めます。

地球内企業として

1. 阿武隈の美しい自然を守るため、地域社会との協調・連帯を図って活動します。
2. 優れた環境技術や製品の開発を提供し、環境活動を通じて社会に貢献します。
3. 相互理解の促進のために、積極的な情報開示とコミュニケーションを行います。

2006年4月1日
川俣精機株式会社
取締役社長 澤村光仁

「当社は、環境中期計画を定め改善活動を進めています。」

川俣精機(株)環境保全中期計画

[様式1]

[全社]環境目的・目標

作成・改訂	年月日	社長	環境保全副責任者	(環)長
作成	2006年4月1日	澤村	丹野	高橋
改訂1				
改訂2				
改訂3				

環境目的・環境目標 (2004~2008年度)	環境目的・環境目標 (2006年度)
1. 法規制、自主規制の遵守と維持向上 (1) 大気汚染の調査と改善の推進 (2) 騒音・振動の測定と改善の推進 (3) 水質汚濁・土壌汚染の調査と改善の推進	1. 法規制、自主規制の遵守と維持向上 (1) 大気汚染及び悪臭の測定と改善の推進 (2) 騒音・振動の自主測定と管理改善(朝・夕の稼働自粛) (3) 最終放流口の水質測定、分析の継続
2. 資源の有効活用 (1) 電力使用量の削減(対'03年度比) 2% 一次中計実績値 2,063,720kwr 削減達成目標値 2,022,500kwr (2) 化石燃料使用量の削減(対'03年度比) 2% 一次中計実績値 184KL 削減達成目標値 180KL (3) 水使用量の削減(対'03年度比) 4% 一次中計実績値 5,000m ³ 削減達成目標値 4,800m ³ (4) 梱包費用(木枠・ダンボール・緩衝材使用量の削減) (対'03年度比) 6% ・梱包総費用 26,530千円 24,940千円 (5) 紙使用量の削減(06年度から追加) ・03年実績値 5,235Kg 15%	2. 資源の有効活用 (1) 電力使用量の削減(対'03年度比) 0% 全社使用量 2,063,720kwr/年 本社使用量 949,310kwr/年 富田使用量 1,114,410kwr/年 (2) 化石燃料使用量の削減(対'03年度比) 0% 全社使用量 184KL/年 本社使用量 107KL/年 富田使用量 77KL/年 (3) 水使用量の削減(対'03年度比) 2% 全社使用量 4,900m ³ /年 本社使用量 2,450m ³ /年 富田使用量 2,450m ³ /年 (4) 梱包費用(木枠・ダンボール・緩衝材使用量の削減) (対'03年度比) 4% ・梱包総費用 25,468千円/年 (5) 紙使用量の削減(対'03年度比) 10% 購入量 4,710Kg
3. 廃棄物の削減 (1) 廃棄物排出量の削減(対'03年度比) 20% ・産廃総排出量 一次中計実績値 106t 削減達成目標値 85t (2) 再資源化率(リサイクル率)の向上 80%確保 注)再資源化率=再資源化量÷総排出量	3. 廃棄物の削減 (1) 廃棄物排出量の削減(対'03年度比) 14% 廃油 43t/年 廃プラ 8t/年 廃缶 2t/年 他 1t/年(汚泥・ガレキ等) 一般 38t/年(木屑含む) (2) 再資源化率(リサイクル率)の向上 80%確保 注)再資源化率=再資源化量÷総排出量
4. 環境負荷の削減 (1) 規制化学物質の削減及び代替化(対'03年度比) 10% トルエン・キシレン・アセトン・鉛化合物総使用量 '03年度実績 削減目標値 トルエン 7.6t 6.9t キシレン 2.3t 5.0t(目標値見直し) アセトン 2.0t 1.8t 鉛化合物 0.8t 0.72t (2) 環境関連施設等のリスク低減 (3) 環境教育の実施 1回/年 ・一般環境教育及び特定作業従事者教育の実施 ・環境保全登録施設異常想定訓練の実施	4. 環境負荷の削減 (1) 規制化学物質の削減及び代替化の推進 (対'03年度比) 6% トルエン 7.2t/年 キシレン 5.0t/年 アセトン 2.0t/年 鉛化合物 0.8t/年 (2) 環境関連施設等の計画的改善 (3) 環境教育の実施 1回/年 ・一般環境教育及び特定作業従事者教育の計画的実施 ・環境保全登録施設異常想定訓練の実施
5. 製品アセスメントに基づく改善計画の推進 (1) 省資源化、省エネルギー設計の対象機種を選定と拡大 2機種/年 (2) 製品アセスメント結果に基づく改善計画の推進 ・選定機種の重量・電力・材料等の低減(対'03年度比) 10%	5. 製品アセスメントに基づく改善計画の推進 (1) 省資源化、省エネルギー設計の対象機種を選定と拡大 2機種/年 (2) 製品アセスメント結果に基づく改善計画の推進 ・選定機種の重量・電力・材料等の低減(対'03年度比) 6%
6. グリーン調達 (1) 取引先の環境保全活動評価 (2) 環境関連物質の管理強化	6. グリーン調達 (1) 取引先環境保全の調査依頼と評価 (2) 環境関連物質管理Aランク物質代替の推進
7. 取引先への環境方針の周知と指導・支援の推進 (1) 取引先への環境方針・目的の周知 (2) 取引先への指導・支援 1回/年	7. 取引先への環境方針の周知と指導・支援の推進 (1) 取引先への環境方針の周知徹底 (2) 取引先への指導・支援 1回/年
8. 地域との協調連帯の推進 (1) 地域社会環境改善 (2) 環境ボランティア活動の推進 2回/年	8. 地域との協調連帯の推進 (1) 隣接地域への環境配慮の推進 2回/年 ・騒音・振動・排ガス自主管理・隣接側溝清掃・除草等 (2) 地域の環境活動への積極参加 ・行政・地域の環境活動への積極参加

「当社は、化学物質の把握と管理の改善に努めています。」
環境負荷の低減 - 化学物質管理

● 製品と化学物質

製品をお客様に安心してお使い頂くため、また有害な化学物質を排出しないため、化学物質の管理に力を入れています。

● 化学物質を管理する法令

化学物質の管理は、2000年にPRTR法（化学物質管理促進法）が交付され、従業員21人以上、第一種指定化学物質1トン以上を使用している事業場は、対象化学物質の移動・排出量を把握し報告を義務づけられています。

● リスクコミュニケーション

化学物質に関する情報を、市民、産業、行政の全てが共有し、お互いに意思疎通を図ることを求められています。

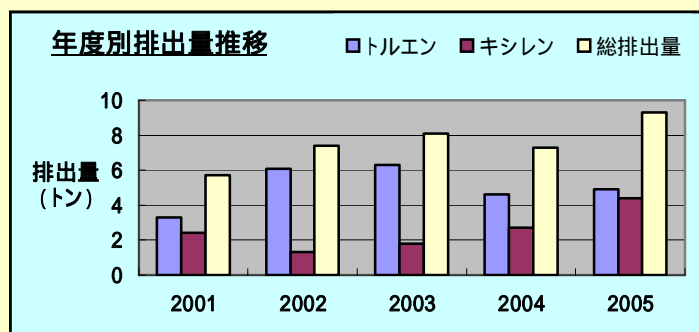
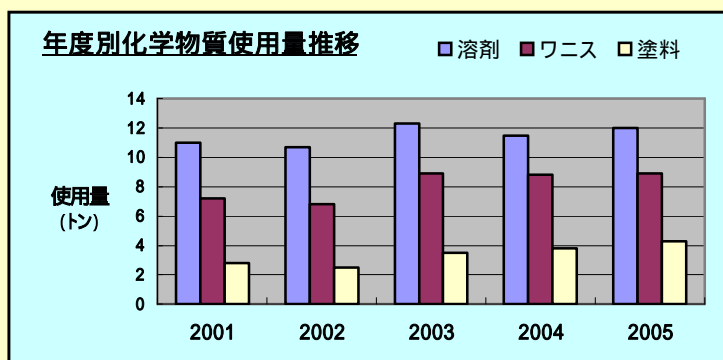
化学物質管理状況（特定化学物質と当社の使用状況）

【特定化学物質】		→	【当社取扱物質】	
PRTR法第一種指定化学物質	354 物質	→	9 物質	
PRTR法第二種指定化学物質	81 物質	→	1 物質	
福島県条例指定物質	100 物質	→	1 物質	
計	535 物質		11 物質	

PRTR法及び福島県条例の指定化学物質中当社の該当は11物質です。

当社の化学物質の総使用量は約25トン/年です。

'05年度の大気中への排出量はトルエン4.9トン・キシレン4.4トンです。



「当社は、化学物質のリスク低減のため改善に取り組んでいます。」
環境負荷の低減 - 化学物質使用量削減

製品・使用・設備面から改善を行ない化学物質リスクの低減を図っています。

'06 / 上製品アセスメント結果に基づく改善の推進成果
大型DDモ - タのECP改善事例

従来	改善後
適用期首 01形機	適用期首 02形機
1. サイズ: D1400 × 68L	1. サイズ: D1090 × 60L
2. 体積: 0.105 m ³	2. 体積: 0.056 m ³
3. 質量: 61kg	3. 質量: 63kg
4. 梱包: 1610 × 300H	4. 梱包: 1300 × 290H
5. 接続: #3号ハンダ付	5. 接続: 銀ロー付 (ハンダレス)

効果

1. サイズ小形化による体積低減率 47%
2. 梱包体積減 ... 37%
3. ハンダ使用量削減 ... 20kg / 年

07年度 見込み台数 360台

川俣精機株式会社 技術部

・設計改善で体積率47%まで小型軽量化を図り省資源化を図った。
 ・また接続レス、ハンダ付けを銀ロー付けに改善し鉛ハンダの削減を図った。

化学物質使用職場の改善
ワニス使用量を最少にした改善事例 (使用量 35%削減)

含浸容器の改善

1. 容器を製品に合せ角から円筒に
2. 中芯を入れ樹脂の溶解量を最少に

容器のセット

中芯の体積だけ樹脂の溶解量(使用量)を削減した事例

ロータを含浸容器に挿入し、ワニス樹脂を滴下して浸漬した姿

設備導入による改善
ハンダ付けを熱圧着に改善した事例 (ハンダ+化学物質レス)

ハンダ付(従来)
 銅線彫 フラックス ハンダ付 洗浄 (化学物質+鉛ハンダ使用)

熱圧着(改善)
 鉛ハンダ+化学物質レス

改善効果 鉛ハンダ 115kg / 年の削減
 800台 / 月 × 12ヶ月 = 115kg
 フラックス (浸透剤) + シンナー (洗浄剤) レス

「当社は、地域住民の皆さんと環境コミュニケーションを行なっています。」

環境活動の公表 地域説明会

● 当社は、環境保全基本方針で

「阿武隈の美しい自然を守るため、地域社会との協調・連帯を図って活動します」

「地域との相互理解の促進のために、積極的な情報開示とコミュニケーションを行ないます。」
を定め活動しております。

● 具体的には

1. 毎年地域説明会を開催し近隣住民の皆様に環境・CSR活動を紹介してまいります。

2. 環境・CSR報告書を作成し活動状況を紹介してまいります。

3. 積極的に活動状況を発信し、また地域社会に貢献してまいります。

● 地域との環境コミュニケーション（地域説明会の開催）



工場見学会の風景

- ・近隣住民の皆さんを招待し工場見学会、環境施設の案内を行う。
- ・近所に住んでいて何を作っているか解らなかったが参加して良かった等好評でした。

- ・化学物質を使用職場で管理状況を説明しご理解を頂きました。
- ・当社の事業から発生する環境負荷に対するご意見をお伺いしました。



化学物質管理板での説明風景



花見に参加風景

- ・地域説明会終了後当社の春のレクリエーションに参加を頂き交流を図りました。
- ・当日は、あいにく肌寒く工場内での開催となりましたが有意義な一時でした。

「当社の環境活動を積極的に公表し、また発信しています。」 環境活動の公表 - 活動状況の発信

● PRTR 大賞 2006 優秀賞を受賞

- ・ 当社は、PRTR 制度に基づき、積極的な情報の公表と化学物質の管理、及び近隣住民の皆さんとの環境コミュニケーションに取り組んでおります。
- ・ 県の化学物質リスクコミュニケーションに関する事例発表会、意見交換会、また、環境円卓会議で事例発表する等率先した活動が評価され優秀賞を受賞しました。

● 活動の継続

- ・ 情報公表と地域との協調・連帯の推進を環境保全基本方針に定め継続します。
- ・ 行政・地域共有するための環境コミュニケーションを継続し充実を図ります。



- ・ 第16回環境省円卓会議で「化学物質とリスクコミュニケーション」の取り組み事例を発信した。
- ・ 当社の地道な活動と継続が評価され PRTR 大賞の推薦を受けた。

- ・ 第3回 PRTR 大賞優秀賞の受賞講演の様子。当社の「化学物質の管理とリスクコミュニケーション」の取り組みを報告した。
- ・ 中小企業としては初の受賞



- ・ 福島県から、クレハいわき工場と当社が受賞した。県内初受賞
- ・ 表彰式に出席した当社メンバー向かって左から澤村、丹野、高橋
- ・ 表彰状は「東芝グループ環境展」に掲示され披露されました。



- ・ PRTR 制度とは：化学物質の情報を事業所・行政・市民の皆さんが共有し協力し取り組みを進める制度です。
- ・ 化学物質の使用事業所は、PRTR 制度により大気への排出量、移動量を公表し、地域住民の皆さんに理解を得なければなりません。
- ・ 化学物質のリスクを事業者、行政、地域住民が共有する行為をリスクコミュニケーションと言っています。
- ・ PRTR 制度・大賞等の情報は、社団法人環境情報科学センター - <http://www.ceis.or.jp/index.html> に掲載されています。

「行政・地域行事への積極的な参加を通じ交流を図っています。」

地域との交流・貢献 出前授業の開催

- 地域との貢献 出前授業の開催 当社は、21世紀を担う子ども達を応援しています。
 - ・ 当社若手技術者が講師となり、第10回川俣町「こども科学館」が開催されました。
 - ・ 「モータの秘密をさぐろう」～ モータがどうして回るのか川俣精機のプロの話しを聞こう。



- ・ 川俣町では、物事・事象に対し「科学する子」を育成し21世紀を担う人間育成に力を入れております。
- ・ 当社は昨年引き続き、川俣町の小学校4・5・6年生の「モータの秘密を探ろう」の出前事業を行いました。
- ・ モータがなぜ回るかの「神秘(ふしぎ)」を説明しました。

- 皆でモータを作ってみよう。
 - ・ 次はみんなでまめモータを作ってみよう。当社提供の材料で挑戦です。
 - ・ 半信半疑でモータ作りを始めました。
モータが回った瞬間感激の声が上がりました。



「行政・地域行事への積極的な参加を通じ交流を図っています。」

地域との交流・貢献— 工場見学会・地域行事参加

- 地域との交流貢献 中・高校の工場見学・体験学習の受入れ



授業の一環として高校生の工場見学会



高校生の体験学習 社会・企業を知る

- 川俣小学校5年生と共に広瀬川清掃

河川清掃を通じ環境の大切さを学び・体験しています。当社も参加し指導・援助しています。



どんな物が！観察しながら清掃開始



分別を学びながら。

- 地域行事への積極参加と交流

地域の団体が主催する環境行事へ参加・当社活動の紹介

また、当社澤村社長が「企業と環境」と題し講演する等積極的な交流を図っています。



町の川に住んでいる生物や観察結果を展示

「当社は、地域環境への影響を配慮した活動を進めています。

地域との交流・貢献 地域社会への配慮

当社は、防災・耐震対策の徹底を図っています。

また、地域社会に配慮した清掃・周辺環境の整備等を進めています。

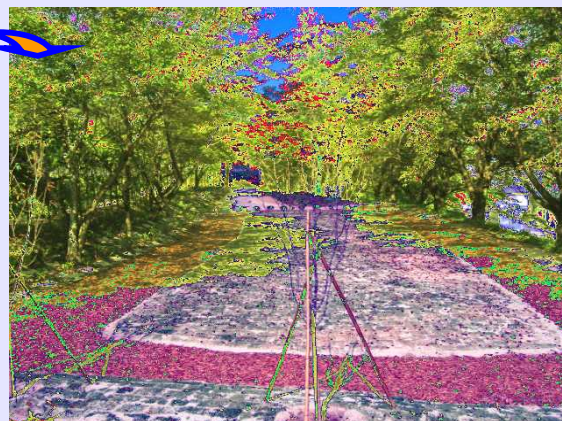
- 防災訓練風景です。当社は毎年訓練を実施し異常事態に備えています。



- 耐震対策から老朽建屋の更新・配配置を進めております。
下図は、操業当時の老朽建屋を従業員駐車場に再配置した風景です。



- 地域に隣接する遊休地の公園化 防災上も考慮し公園化し地域の皆様にも開放しております。
また、地域隣接地は定期的に点検・清掃を行ない、安心感を持って頂ける活動を継続しています。



当社は、地域環境への影響を配慮した活動を進めています。

環境施設の管理と環境異常への対応

当社は、環境施設の毎日点検を行ない正常に維持管理に努めています。

- 目視化を行ない異常を素早くキャッチし対応出来る管理を行なっています。



- 施設の点検・清掃風景です。右は異常時対応備品置き場です。



- 環境施設の異常対応訓練風景です。

・貯油施設は、給油業者さんと共に訓練を実施します。給油時の点検方法の確認風景です。

・当社は年2回定期的に訓練を実施し、素早い対応が出来るよう教育・訓練を重ねています。



当社は、良き企業市民の育成に努めています。

良き企業市民の育成 従業員教育の充実

当社は、従業員教育の充実を図り「良き企業市民を育成し」

地域社会に貢献してまいります。

● 教育の種類と内容

当社の環境教育は次の種類と対象者に実施しています。

教育の種類	当社の対象者
特別教育	<ul style="list-style-type: none"> ・著しい環境側面に関する業務の従事者（化学物質等の作業に従事する従業員に対する教育） ・環境施設の管理や監督に携わる従業員 ・環境に関する法令に関する事項に携わる従業員
監査員教育	<ul style="list-style-type: none"> ・環境マネジメントシステムが適切に運用されている事を監査する環境監査員に対する教育
管理監督者教育	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者・監督者や環境の目的・目標・実施計画を推進する担当者
環境教育	当社の全ての従業員（構内作業を含む）
法定資格者教育	当社で必要とする資格者を要請するための教育

● 環境教育の実施風景です。



部課長研修会の様子

- ・会社の部課長は法定要求事項を含む環境管理全般の知識と力量を保有するための教育を実施しています。
- ・また、会社幹部は地域おける貢献等も率先垂範することをお願いしています。

- ・化学物質使用職場における特別教育風景です。化学物質の特性や取扱いの力量を保有するための教育・訓練を実施しています。
- ・緊急時の対応等も教育・訓練し認定者が作業に従事しています。



特別教育の様子